

小規模事業者経済動向調査報告書（要約版）から

◎平成 30 年 10 月～12 月の D I 及び前期（平成 30 年 7 月～9 月）との比較

製造業：「売上（加工）額」及び「売上（加工）数量」が、前期との比較で「大幅悪化」の判断を示している。他の 3 項目は「横ばい」の判断を示しており、「売上（加工）額」が悪化している原因は、「売上（加工）数量」の低迷と考えられる。

経営上の問題点でも示されているように需要が停滞していることが大きな要因と考えられるが、変化する製品ニーズへの対応なども必要となってきた。

建設業：「完成工事（請負工事）額」が「大幅悪化」を示している以外は、プラスマイナス 0 の D I 値である。「完成工事（請負工事）額」が減少しているのも、前期が好調であった反動とも取れる。前期の D I でマイナスを示した「採算（経常利益）」が「好転」の判断を示しており、前期の完成工事額が資金面の改善に表れてきた。

一方で、熟練技術者を始めとした従業員の確保難が経営上の問題点として懸念される。

小売業：全ての項目が前期と同様にマイナスの D I である。また、景況判断は「売上額」が「横ばい」を示している以外は、「大幅悪化」・「悪化」を示しており、特に前期は維持していた「客単価」が「大幅悪化」を示し、業種全体として厳しさが増している。

サービス業：前期は全ての項目がマイナスの D I を示し、前々期までの底堅い景況感が厳しさを増してきた状況であったが、今期の景況判断は、「好転」・「横ばい」・「大幅好転」を示している。業界全体として、やや持ち直しの兆しがみられる。

なお、事業所によっては従業員の確保難が課題となってきた。